

第1回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 平成29年8月18日（金）午後7時から午後8時30分
- 2 開催場所 伊東市役所8階大会議室
- 3 出席者
 - (1) 伊東市未来ビジョン会議委員16人（欠席2人）
 - (2) 伊東市長、伊東市副市長、伊東市教育長、伊東市市長戦略監、伊東市企画部長
事務局（行政経営課長、行政経営課長補佐、行政経営課主査）
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 市長挨拶
 - (3) 委員の委嘱
 - (4) 自己紹介
 - (5) 意見交換
 - (6) 次回テーマについて
 - (7) その他
 - (8) 閉会

(1) 開会

行政経営課長から開会

(2) 市長挨拶

本日は、大変ご多忙のところご出席いただきありがとうございます。この会議は、今まで一度も実施したことがない若い世代の皆様の生の声をしっかり聞く場であり、伊東市の未来ビジョンについて語り合い、政策につなげていくことを目的としております。

本日はその第一歩の日でございます。まず御礼を申し上げたいと思います。この会議は私の公約でもあり、皆様が日頃、色々な場面でたくさんの方と出会い、語り合い、自分の思うこと、そういうものが反映できているだろうか、それができているということであればそれもお意見だと思いますし、そうでなかったという方もいらっしゃると思います。

時代は刻々と変わっていくわけでありまして、例えば観光客についても、日本へのインバウンドのお客が増えております。今年は、2,000万人を突破し、3年後の2020年には4,000万人を目指している状況であります。外国人の皆さんが日本で消費される金額は8兆円と予想されております。その中であって伊東市は観光地で、従来の日本の皆さんをお迎えするだけではなくて、将来は外国人の方も温泉を中心に伊東でゆっくりくつろいでいただく、そういう場所に変えていかなければならないと思っております。そのためのアイデアもいただき、ここではそういうことも語っていただきたいと思います。

私は、伊東の魅力は、文化力を高めていくことと、観光の振興、産業の育成だと認識しており、これらが必ず今までの伊東にない未来を拓いていくことと思っております。

私は、今までの行政を継承していく立場で市長に選んでいただきました。しかし、変えるべきものは変えていく、そういう勇気も持ってこの場に立っております。本日もご臨席いただいている皆さんは、様々な活躍をされておるかと思っておりますので、その中でのご意見を賜って政策に変えていく、これが私の目指す伊東市の行政でございます。

そのためにもここで色々なお話をさせていただいて、これからの伊東市民のためにも私達が頑張っていきたいと思いますというものでございますので、ぜひ色々な面でご協力をいただきまして、忌憚のないご意見がこの場でできますことをご期待申し上げ、また、これから会議を何回か重ねていきますが、ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、冒頭の私の挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 委員の委嘱

○小野市長より委員に対し委嘱状交付（省略）

※委員の任期は、平成30年3月31日まで

(4) 自己紹介

○各委員及び当局並びに事務局から自己紹介（省略）

(5) 意見交換

事務局： それではただいまから意見交換に入ります。なお、会議及び会議内容については基本的に公開とさせていただきますが、名前を伏せる形での公開とさせていただきます。委員の氏名、選出団体のみを記載した名簿は報道各社に配付いたします。それでは、要綱第4条第2項に基づき、小野市長が座長を務めることとされておりますので、よろしくお願いいたします。

市長： 座長を務めさせていただきます。これからは、皆様、着座で結構であります。まず第1回でございますので、今回は特にテーマは設けてございません。ご自由な発言をお願いしたいと思っております。皆さんが日常業務を行う中や子育てする中、生活をする中で、伊東市のまちづくり等を感じていること、それから伊東市の未来について抱いている思いなどを遠慮なく言っていただきたいと思います。会議終了は8時半を予定しております。意見はお一人3分程度でお願いしたいと思います。

本日はテーマがありませんので、特に自分が思っていることをご発言いただければと思います。皆様が思っていることをどのように政策に反映していくことができるかは、伊東の未来をどのように切り開いていけるかということにもなりますので本当に素朴な意見でも結構でございます。

委員A： 私は、伊東市に住み続けたいと思える街づくりをすることが伊東市の未来にとって重要なことだと考えております。伊東市に住んでいる人たちが伊東市に住み続けたいと思える街づくりをすることができれば、自然と外から入ってくる人も増え、伊東市が盛り上がってくるのではないかと考えております。具体的にどうしたらいいというのは難しい話ではありますが、身近な市町の成功例を参考にできればと思い

ます。例えば、私が前職にて営業で回っていた長泉町は、静岡県東部で人口が増えている町だと聞いております。特に都市部へのアクセス、子育て支援に注力し、若い人たちの人口増加につながったと聞いております。新東名の開通や企業の大規模工場のような外的要因もあると思いますが、同じ静岡県東部にありますので、伊東市ならではの自然や観光といった部分で差別化を図ることができれば、同じ道をたどれると考えております。これから開かれる未来ビジョン会議では、伊東ならではの魅力を発信できる討論ができていければと考えております。

委員B： 普段、農家さんとお話する機会がとても多いので、その中で自分が感じていることは、伊東市の農業のことです。伊東市の農業は、隣の町や大きな町と比べますと山の中に小さな畑が数箇所点々としておりまして、畑ごとの立地が坂道にある形になるので、農業を大規模展開していくには難しい条件が揃っています。こういった条件により、伊東市の農業は、新しい人の参入がないのかなと感じています。

その中で、この未来ビジョン会議というご縁をいただきましたので、伊東の農業に少しでも貢献できればと考えております。伊東市の特徴としましては、立地こそ畑農業をやるには、不利な条件が揃っているのですが、他の農地にはない、観光としてはすごく有名な場所ですので、その観光を生かした観光農業という展開ができるような政策・アイデアが出せればと考えております。

委員C： 子育てのことについて、未来を見据えたというよりも現状をお話しさせていただければと思います。

私は小学生と中学生の子供がいます。中学生になって初めて分かったことが、部活動にかかる費用が多いところでは5万円以上かかるということです。少ないところでも2万円程かかります。今、学校については統合するという話もありますが、生徒が減っている中で部活動もどんどん減ってきており、女子のバレーボール部がなくなるかもしれないという話も出ている学校があります。息子の部活で、先日県大会に行ってきたのですが、他の学校や他の地域を見てみると市がとても盛り上げてくださっており、協力体制が整っていて、子供たちが伸び伸びとできる環境を作ってもらっているなと感じました。

伊東市は、教育費がどうしても足りないという話を聞いています。家庭の負担がとても多いからなのか、それが要因で部活を諦めているお子さんがいたり、親がそれはできないと最初から諦めさせていたり、そういう状況が出てきているのが現状で悲しいことでもあります。中学生がやりたいことを中学校時代に思う存分やらせてあげるためにも、もう少し考えていただけると嬉しいなと思っています。

今後、高校に入学するにあたり、経費は色々かかってくると思いますが、まず、今私がすごく感じるのは中学校の部活です。細かい金額までは分かりませんが、家計の負担は色々あります。高校までの医療費の全額負担も平等でありがたいことですが、中学生の部活についてそういう現状があることを知っていただけたら嬉しいなと思っています。

委員D： 訪問型家庭の子育て支援の活動をしております。訪問する相手のお母様は、移住されてきた方や、なかなか表に出られないような方、さらには、近くに祖父母がい

ないご家庭の方など、多くいらっしゃいます。数年前から海カフェという事業の委託を受け活動をしております。今年度は3箇所、川奈と八幡野と宇佐美で活動しております。お母さんたちには非常に好評です。10時から2時までで、お昼を持ってきてゆっくり親子で過ごしていただくという活動になります。サポートする人数に限界があるので、広くPRすることができる状態ではないのですが、このような活動をどんどん広げて行けたら良いなと思っております。

私がこのNPO法人に所属するきっかけとなったのは、私自身が移住をしてきた時に全く地縁がなく、仕事もDTPデザイナーをしておりますので、自宅で仕事をしながら子供を育てておりました。子供が2歳の時に、サポートしてもらいたい状況になっても、ご挨拶をするご近所様はいても、そこから先に一歩踏み出せませんでした。私自身の少し苦しかった時期を乗り越えた時に、このNPOの活動がスタートするというのを広報いとうで見て、私以外の方にも同じように困ったというニーズがあるのではないかと思い、ビジター研修を受け、ビジターとして活動を始めました。

移住した時にまず困ったことが、車を持っているご家庭と持っていないご家庭の子育てのエリア、行動範囲が全く違うということを知りました。例えば東京にいた時は本当に便利だったので、その交通手段は地下鉄・バス・タクシーと色々な選択肢があったのですが、伊東市に移住した時に車が無いとホームセンターに買い出しにも行けないという現実直面しました。ペーパー講習を受け、車を取得して運転することで様々な不便は解消できたのですが、公園や保育園の子育て支援室に遊びに行こうと思った時に駐車場の台数が無いのでなかなか行くことができません。私が住んでいるところからは距離があり、徒歩で行くことができないエリアでしたので、行く機会が減ってしまうということがありました。

今、伊東市の健康福祉センターに「すきっぷ」という新しい子育て支援の施設ができましたが、駐車場の台数も200台あり、お母さんにとっては、とても良い場所ができたと思っております。しかしながら他の公園等、他の子育て支援の場所には行きづらい状況はあると思っておりますので、この点を改善いただければありがたいと思っております

委員E：今はまだ具体的な事はありませんが、外から移住してもらうことももちろん大事なのですが、その前に伊東市から出て行かないような仕組みが必要かなと思っております。例えば、学校がないという問題を解消したり、若者の事業支援を手厚くしたりです。害獣駆除として若いハンターを養成したり支援したりっていうことをしてそれで食べられるという状況を作ってあげて、外に出て行かない仕組みが作れば良いかなと思っております。

委員F：私がバレーボールを始めたのは中学校の時でした。ずっと続けていくうちに大学4年生までやりました。練習も週6日、休みは1日しかなく、ずっと練習してきました。大人になったらもう辞めると思って過ごしていましたが、企業に就職して、そこのバレーボール部に参加してみたら楽しく、今に至るまでバレーボールを続けています。

3年ほど前に、もう1回学生時代の頃のようにバレーボールをしたいと思い、大学のバレーボール部同期の仲間や後輩に声をかけ、合宿をしました。当時東京に住んでいた私は、是非伊東でバレーボール合宿がやりたいと思い色々調べてみたのですが、体育館を借用し宿泊施設も近くにあつてパックになったような形でできるところが見つかりませんでした。仕方なく千葉県の九十九里の白子温泉で合宿を行いまして、そこは体育館付きの民宿でした。その良かった点は、アクセスもそれなりに良かったことと、東京駅から直行のバスが近くまで出ており、東京から1時間半から2時間程で到着できるような立地だったことです。ただ、千葉でやるのであれば伊東でも変わらないと思いました。

もし、再び将来このような企画をやりたいなと思った時は、伊東でできたらいいなと思っております。大学生のサークル合宿を伊東でできるようになると非常に良いと思います。私の大学の先輩は40歳程になるのですが、年に3~4回必ず伊東に来ます。なぜ伊東に来るのか聞いたところ、学生の頃伊東で合宿をやって、浜のあたりで走ったのがいい思い出だったからというのを聞いて、やはり若い学生さんに町で合宿していただくことは、その1回では終わらずに、未来もまた伊東に来たいという思いを根付かせる一つの動機につながっていくものなのかと思いました。

市長の所信にも書かれております生涯スポーツのまちの中で、スポーツツーリズムの言葉がでてきますが、そういったところでひとつ若い世代の合宿を、大学の生協とかも活用しながら何か便利にできるようになるものがあれば良いかなと思っております。

委員G： 私たちの団体は、今65名の会員がいます。今までは地域の中でプロ社長を目指そうということで、自分たちが自己研鑽の場としてこの会を利用していました。講習会もやっておりましたが、やはり自分たちの中でネタが切れるわけです。今後どうして行くかということで、世の中には色々と事業を行っている同じ会議所青年部があるため、そこと交流をしようということで、一昨年にその静岡県青連と関東ブロック、日本の商工会議所青年部の加盟をいたしました。

今は、この地域を越えて、近隣の伊豆半島でYGと言いますが、5YGの集まりをしています。9月には伊豆東海岸と伊豆半島と山梨の富士吉田商工会議所のメンバーを集めて伊豆高原で会議を開いて交流を深めようとしています。

交流を深める理由は、交流を深めることによりビジネスへと発展させるとともに人間と人間の付き合いをすることにより、そこで仕入れた価値観や人柄を商売の種にしたいと思っているからです。交流をすることによって、全国から伊東に人を呼ぶことができ、伊東に来てくれれば皆さん良い所だと言って帰っていきます。思い出を持って帰っていくため、再び来てくれると思います。そのため、来るきっかけを作ることが重要です。私たちがそういったことをすることによって、地域が発展し地域の中でその化学変化を起こして私たちの商売にも繋がっていくということがあるのではないかと思います。

先ほど話があつた宿泊施設からスポーツ施設までの距離もそうですが、集まる場所が転々としております。私たちはスポーツするわけではないですが、会議して皆さんで大ホールに集まって大会をして、大会の後、伊東で宴会して飲む、泊まるようになった時にそういう場を見つけることができません。そのため、できないよねとい

うことで終わってしまいます。沼津市は20万程の都市だと思いますが、沼津市にはプラザヴェルデがあります。再来年、日本のYGメンバー5~6000人を集める会議をしますが、私たちは手伝うことになっています。お客さんを伊東に連れてくるように努力はしますが、大会は沼津なので山を越えてくる人はたかが知れています。やはり行政と協力して、何かそういう受け皿を作って欲しいです。

私達が作ってもそれが商売になるかということそれは無理だと思います。色々な用途で使用でき、皆さんが集まり、防災にも使用できる、そういうホールや会場が行政であると、私達も事業に使用できるのではないかと思います。

結局、伊東のために伊東に再度来てもらうために、私達が一人ひとりに声をかけてやってきたいのですがそれができるかできないかは、なかなか難しいかなと思っています。この先を考えると、今必要な物は、そのような集まる場所かと思っています。

委員H： 伊東温泉は、全国第5位の湧出量を誇る町です。それがあまり表にでておりません。別府や湯布院のように、温泉の街という表現ができていないと思うところがあります。静岡で温泉といえば熱海と言われてしまうところが、まだまだ弱いと感じるところです。宿泊施設も、県内では伊東が1番宿泊施設を持っている町です。まだまだ有効に使えるところがあるのではないかと思います。

また、表に出る名前、ネームブランドの弱さがまだ見られると感じています。子育てにしても何にしても、伊東市にお金がないとできません。やるのであれば、外貨を稼ぎ、観光でお客様を誘客しなくてははいけません。「伊東ってどこ？」ではなく、「伊東なら行こうか」「この前行ったけど、よかったよ」と、つなぎをもてるようにしていかないと先がありません。

伊東駅は、タクシーや自家用車、旅館の送迎車等乱雑し、お客様が混乱している状況にあります。再開発といっても進んでいない現状を変えてほしいです。お客さんが来て目の前にタクシーがいる町は少なくなっています。改善していけるようになればいいなと思っています。

委員I： 働いてて思うことは、高齢者が年々増加していて、高齢者の方が生活しにくい状況が目立つことです。また、大通りではないからといって、道が悪い状況があります。一人ひとりが車を一台持つような生活主体になっていますが、交通手段がより便利になればそういう高齢者への環境にも影響しないようになると思います。

また、テレビで伊豆特集を見ると、大抵熱海から始まり伊東を少し放送して、修善寺の方に移ってしまうことが多いです。その点で熱海に負けていると思います。何をするにもお金がかかりますが、やはりそのリスクを考えつつも挑戦してみないと結果は分かりませんので、色々新しい政策ができたらいいなと思っています。

あとはやはり働く場所があまりにも少ないことです。高校自体も進学を進めている状況なので、地元で働ける場所を多くしたり、主婦の方たちがパートで働きやすい場所を作ったり、賃金を少し上げたりするなどの政策を考えた方が良いと思います。伊東にいる友達は、遊ぶ場所がないから伊東から出て遊ぶという話をしていました。確かにレジャー施設が無く、私が学生だった時も沼津や東京方面へ行っていました。ただ、東京方面へ行っても帰宅するには11時までに帰ってこない伊東

に帰れない状況です。そこが便利になれば、伊東にいつつ、都会にも遊びに行ける状況ができるのではないかと考えています。

今の時代SNSなどが発展しているので、それを有効活用して伊東市を盛り上げるイベントや政策ができたらいいなと思っています。

委員J： PRを充実し、認知度を上げていけたらいいなと思っています。町内のお祭りを自分たちで行っておりますが、やはり伝統ある素晴らしいお祭りだと思っていますので、PRの一つとして伊東の祭りを全国的に周知することができればと思っています。伊東に集まってきたき、祭りに参加したいと言う人が増えてくれれば、私としては嬉しいです。

今年、海にウォーターパークをやっていただきました。砂浜を、例えば白浜のような綺麗な砂にすれば、もう少しPRの材料になるかなと思っています。

委員K： 青年会議所では、まちづくりの事業や青少年育成事業を行っています。サッカー大会も行っており、今年度で45回目ですが、初めてまちづくり事業補助金を申請しました。しかしながら、青年会議所は自分たちの年会費で事業を行っておりますので、正直その会費で事業をやっていくことが、大変厳しくなっている状況でございます。そのため、まちづくり事業補助金を申請して補助金を少しいただく形をとったのですが、正直それだけでは賄えない部分があります。青年会議所のメンバーは17人ですが、メンバーが増えていかないとお金も回らなくなっているのが年々青少年育成事業やまちづくり事業を実施することが厳しい状況になっております。色々会議を重ねておりますので、良い意見や良い事業はあるのですが、お金の問題だけがとてもネックとなっていて、やっていけない部分がたくさんあります。そういった形で色々、行政に協力していただけたらもう少し素晴らしい事業がたくさんできると思っています。

先ほど話にもありましたが、青年会議所も商工会議所も全国規模の団体でございます。全国からそういった方々を呼ぶということになったら、私たち団体だけでは行うことができない部分がたくさんあります。そういった時に、市が全面的に協力をしていただければ、かなり多くの人を呼ぶことが出来ますし、伊東という町で全国大会をしたいとかそういうことも色々できるのではないかなと思います。

皆さんからの意見にでていましたが、やはり伊東市はPRが乏しいのではないのかなと思います。先ほど話にもありましたが、素晴らしい祭りをやっているのに、自分たちか、その隣町程度の人間ぐらいしか分かっていない現状です。あと、観光地なのに観光なのかどうか全く分からないところが少しあったりします。

今、熱海はメディアに多く出て、たくさんの方が訪れています。その中で熱海が熱海ブランドと銘打ち、展開しております。伊東も伊東ブランドと銘打ち、展開していると思うのですが、言い方悪いですが二番煎じです。ウォーターパークに関しましても、熱海の方が先に実施していますし、どんどん先に手を打ってやっていかなければいけないと思います。隣町と比べられて、伊東にはなかなか人は来ないのかなと思うところがあります。伊東の中で商売をやらせていただいて、それはひしひしと感じています。観光客にも、どこか遊ぶところがないかと問われたら正直考えてしまう部分があります。

遊ぶ所は、海・山あって素晴らしい部分があるのに、どうしてこんなにプレゼンが下手なのかというところが少し疑問に思いますので、そういうところも皆さんで話し合って提案して、もう少し本当に盛り上げていければなと思っております。

委員L： 先ほど何人かの方が仰っていましたが、私も今後の伊東市について取り組んでいただきたいこととして、交通手段の確保があります。

伊東市は観光地として有名ですけれども、南北に広いこともあって、電車等で伊東を訪問した観光客や外国人の方には、少し移動が難しいかなと感じております。

伊東市は高齢化が進んでいて4月時点で高齢化が40%を超えています。高齢化率の増加で、最近の高齢者の方が事故を起こすことが多いです。伊東市でも運転免許の自主返納をされる方が年々増加しておりますが、自主返納した方にバスやタクシーを無料にするという政策は行っておりません。助成制度はありますが、窓口で接していると、免許を返納してしまったことで買い物等が不便になった、病院に行きづらくて困った、といった声をいただくことが多いです。

また、市民満足度調査の結果を見ても毎年上位には、「買い物や日常生活の移動に不便」や「通勤通学が難しい」といった項目が上がっていました。デマンド型乗合タクシーも実施されているようですが、予約が必要なことや、場所が伊豆高原から赤沢までという場所が限られていることもあり、普段から利用するのは少し難しく、観光客にも難しい面があるのかなと思いました。

こうしたことに鑑みても、観光客や高齢者の方、または私たちが病気や怪我をした時に利用しやすいような交通手段を、相互に利用しやすいような交通手段を考えていただくのが必要ではないかと思いました。

委員M： 私は5月に子供が生まれました。まだ3ヶ月ぐらいで男の子です。先日、お盆で実家に帰ったところ、東京都江東区に住んでいる姉も帰省しており、姉と話をしました。姉の子供は1歳3ヶ月ですが、今認可外の保育園へ行っていて、江東区自体が待機児童3,000人も抱えているそうです。江東区は最近、千葉県に近いこと隣町から江東区に転入する住民が多いということで人気の街らしいです。私もそんな話を聞きながら思ったことが、子どもに対して手厚い街づくりが一番良いのかなと思います。

私たちここに集まっている皆さんも、若いと言っておりますが将来的な事を考えましても、こういったものを次世代に、要は生まれてきた子供達とか末代までつなげていかなければならないのかなと思っております。私の子供が大きくなってから伊東に残るかどうかは、まだ少し先の話ですので分からないのですが、子供達が伊東に住み続けたいと思えるようことを考えていくべきではないのかなと思います。子供が結婚して孫が生まれて、その子がまた伊東に住んでくれたら良いかなと思っています。

端的に言うと子育てに手厚い街づくりをしていくのが一番良いのではないかと考えております。

委員N： 先ほどの挨拶でも申し上げましたが、後継者不足についてです。

私は、郷土芸能に祖父の代から関わっておりますが、人材が足りていません。実際、私の同級生は皆お祭りには参加していたと思いますが、学生になり外へと出た場合、帰ってくるための雇用先がないため、帰って来ないという状況があります。伊東に帰ってくる魅力がなく帰って来ないということで、人数が足りない形に現状はなっております。

また、郷土芸能と少しお話が変わりますが、私の他界した祖父は、漁協の組合長をやっておりました。富戸という郷土柄、隣には八幡野、池があります。私の友人にはダイバーや漁協関係者がたくさんいます。実際メガソーラーができた場合、環境に対してどうなるのだろう、その人達の今後の仕事はどうなっていくのだろうと言うことを伝えてくれと本日言われてきました。それに対して、色々心配しておりますのでよろしくお願いします。

委員〇： 私が伊東市の未来に必要なと思うのは、人口の流出を止めて増加させることだと思いました。その上で、移住促進と、就職先を増やす意味での観光事業の2点について意見を申し上げます。まず、移住促進については、昨年伊東創造大賞を受賞されたサテライトオフィスの誘致や伊東市での事業を始める方への支援など様々な取り組みをすでに行っていると思うのですが、より移住への入口を広くする必要があったと思いました。例えば、通勤手当の自己負担額の一部補助や、いきなり移住するということを躊躇する方のために移住体験施設の設置など、移住へのハードルを下げることで移住の選択肢に上がる可能性も高くなると思います。移住というとハードルが高いため、引っ越しの感覚で住民を増やすことで、伊東市が元気になることに繋がると思います。

個人的な話で、私には子供がいますが、独身の時は正直もう少し都会に住みたいと思うことがありました。しかし、子供が生まれてからは立地や環境、様々なイベントがあることから、伊東市で今後も子育てをしたいなと強く思うようになりました。そういったところで、ターゲットについては個人的には子育て中のファミリー層の方々に移住をしていただきたいなと思います。こういったファミリー層で物事を決定する権限は、最終的には奥さん・女性にあるというのを聞いたことがあります。女性なので育児中の女性が孤立しないような環境づくりや支援をして、そういった女性にとって魅力的な地域になることで、移住先の候補としてとても強みになると思います。

次に観光事業ですが、身近な成功例として熱海市が挙げられるように、やはり発信力が必要だと思います。熱海市に鑑みるように、メディアでの露出と観光客は比例すると思います。メディアに出ることが一番だと思うのですが、他にも若い子たちに流行っているインスタグラムや、インスタ映えするスポットを調べて情報発信する等、需要を模索することで、今後もあることができるかと思っています。

あと、伊東市は色々なイベントをやっておりますが、まだイベントに関しても試行錯誤できるかなと思っております。数年前から開催されている枕投げ大会もメディアにも紹介されたこともあって、定着しつつあるのかなと思ってます。そういった新しいイベントも始めることも面白いなと思ってます。ただ、イベントを始める際にはターゲット層を絞り、動員はどうだったかを見直し、改善するとか具体案はないのですができるかと思っています

委員P： 街歩きマップを作っております。街歩きマップ自体は、平成21年から作っているものですが、私が参加したのは5年くらい前からです。普段、伊豆高原に住んでいることもあり、伊東の街を歩くことは、ほとんど経験することはありませんでしたので、改めて町を歩いてみようということで色々歩いている中で、必ずしもガイドブック等に掲載していなくても、こんなところにお菓子屋さんがあるのかなど、たくさん発見があって、いつもすごく楽しいなと思っております。

中でも個人的な偏った意見かもしれませんが、個人的に大好きなのが公衆浴場です。伊東の市内には布袋の湯や七福神の湯等色々温泉がありまして、最初はどうかと思って入ったら良いのかと思っていて入れなかったのですが、一度行ってみるとびっくりするぐらいで良いところでした。こんな安い値段で本物の温泉を味わうことができ、すごく感動しました。素晴らしいなと思いました。

私は姉が東京におりまして、年に1回ぐらい姉が遊びに来ます。どこに連れて行っても喜んでくれるのですが、公衆浴場に連れて行きましたら、見たことないくらい感動しておりました。しかも、こんな安い値段で本物の温泉に入れて、風情があって、どこに連れて行った時よりも感動してくれて喜んでくれておりました。ぷらんぽ女子会で、温泉は大きく取り上げたことはないですが、個人的には伊東ならではのものだと確信しています。

皆様のご意見の中で、発信というキーワードがあったと思うのですが、若い方も含めて好みや趣味嗜好は多様化していると思います。必ずしもみんなが良いなと思いきや、思っていないような物や場所やお店でも、すごく良いと思ってくれるような物はたくさんあると思います。そういうものをうまく発信して行けたら良いなと思いません。街歩きマップを作っておりますので、街を歩いていただきたいなと思いつつも作っています。

やはり、町を歩きますと車でちょっと通りすぎてしまった時には絶対になんか発見がたくさんあっても、未だにいつでもどこか行くと必ず発見や驚きがあって本当に楽しい街だと思いますので、今まであまり取り上げて来なかったようなところも発信できたらいいなと考えております

(6) 次回テーマについて

市長： 本日は初めての会議の中で、皆さんから魂のこもった言葉を一つひとつ感じました。皆さんが今のままで良いと思っていないということや、自分自身の経験や生活の中での経験、それから今までの歩みの中で感じてきた伊東に照らし合わせて思っていること、そういったことが本日このわずかな時間の中でもこれだけ感じることができ、すごく成果があったと思います。次回からはテーマを決めさせていただくこととし、具体的に事前にお話をしますので、何か提案をしていただきたいと思います。

本日は、大変貴重な時間になったと私は思いました。是非、これからもご協力をいただきまして、伊東市のためにそれぞれの立場でお力添えいただきたいと思いません。ありがとうございました。次に、シティプロモーションの展開についてお話をさせていただきます。

市長戦略監： それでは次回のテーマについて、私の方からご説明させていただきます。本日も様々なご意見をいただきましたが、新たなシティプロモーションの展開を次回のテーマにしたいと思えます。委員の皆様からも伊東のネームブランドに弱さがある、プレゼンが下手であるとか、そういった意見もいただいております。

今年度からふるさと納税に係る事業で協力いただいている有限会社中川さんから、本市のふるさと納税のPRが不足してるのではないかというご意見もいただいております。

その中で、新たな取り組みを考えていく必要を市長ともどもひしひしと感じております。そこで本市ならではの様々な資源、皆様方からもご意見をいただいて、それを活用いたしまして国内外を問わず知名度アップ、また伊東市に行ってみたい、またふるさと納税を試してみたいと思わせるような企画の参考となるご意見を次回いただきたいと思えます。

本日は次回の意見交換の参考となるような他市のPR動画、そういうものを若干ご覧いただきまして、委員の皆さんのそれぞれの経験やそれぞれの立場、それを今後の伊東市にどのようにPRしていくのが望ましいのか、次回是非よろしくお願ひしたいと思えます。それでは、有限会社中川さんがいらしておりますので若干説明をお願ひしたいと思えます。

（有）中川： よろしくお願ひします。中川です。ふるさと納税をやらせていただいている中でさらに活性化するため、売上を上げるために伊東市をもっと認知拡大することが必要で、売り上げの拡大はイコールになると考えております。伊東市の中にたくさん魅力があるのですが、やはり外に伝わりきれていない部分がありまして、どう広めていったらいいだろうかというのを、皆さんに意見を伺いたいと思ひ、本日PR動画を二本ご覧いただきたいと思えます。今、ネットを中心に話題になっている地方の自治体のPR動画になります。

まず、宮崎県小林市の動画です。小林市の街を説明しながらフランス人がフランス語で喋っていると思ひきや、地元の方言でフランス人が全部日本語で話をしていう映画風のつくりで、最後にびっくりするようになります。これはどういふものかという、移住者の促進のPR動画で、小林市ののどかな雰囲気というものを落としてそれをコンテンツにしています。

次に、大分県湯布院ですが、これは、温泉の中でシンクロナイズドスイミングの選手達が踊っているという動画で、湯布院の様々な温泉に彼女たちを踊らせて撮っているものになります。動画は、様々な地域で作られていますが、これは先ほどの意見にもあつたように、先手とはならないと思ひます。しかし、伊東市の特徴や魅力というものはどういふものか、何を発信したら伊東市というものがこの数分の中で伝わるかについて、皆様のアイデアやご意見をお伺ひしたいと思ひております。

どの自治体も、映像自体がすごく美しかったり、一つのコンセプトを貫いているところがあります。実際に伊東市に来ていただくために地産地消、魚介類やジビエさくらの里など素晴らしいところがたくさんあります。そういったところで、アメリカで流行っているムービングレストラン、移動型のレストラン、屋外で長いロングテーブルで皆さんと談笑するなど、富士山麓で行ったロングテーブル会というの

があり、その動画を見ていただきたいと思います。これは世界中からわざわざ来られたり、会費は2万円で食事や談笑を楽しむという会なのですが、有名なシェフを招いてだったり地元のワインだったり、飲み物から食材に至るまで、全て地元のものを使って行うというのが伊東市で行ったら良いではないかなと思ひまして、何かまた他にもアイデアがあったら教えていただきたいと思ひております。

外から訪れたい、行ってみたいという、体感できるようなことが伊東市内で行われると、これはまだ他市ではされていないので、先ほどの先手ということにもなるのではないかなと思ひました。こういったところへ来られるゲストには、やはりインスタグラマーであったりブロガーであったりと、食事や景色の素晴らしさを拡散していってもらえると思ひております。

市長戦略監： ありがとうございます。新たなシティセールスの展開ということで、複数回にわたってこれをテーマにしていきたいと思ひます。続けてやるのではなく、1回おきぐらいにやっていきたいと思ひております。次回につきましては、どのようなPRビデオを、例えば伊東のどのような点をPRしたら効果的かについて絞らせていただきたいと思ひます。お祭りや隠れたこういうところがあるとか、映像の演出の仕方、露出の仕方などを中心に次回はお願ひしたいと思ひます。是非よろしくお願ひいたします。

事務局： 今後の開催日及び次回開催日時（9月4日午後7時から午後8時30分）の確認（省略）

（質問）

委員G： ふるさと納税のPR動画を作るから意見をほしいということでしょうか。

市長戦略監： (有)中川さんが、ふるさと納税に協力していただいている企業ということで、そこが発端であります。ふるさと納税に限らず、伊東市をどのようにPRしていくかということでもあります。私たちは当然、伊東市を知っておりますが、東京や大阪の方でも伊東市のことを知らないという現状は実感しています。

そういう方たちに、どのような印象を持っていただくか、行ってみたいと思ひてもらえるかが大事です。ふるさと納税の納税額の増加や人口の増加、移住者の増加等そういうことを踏まえた上でのPR動画、あまり難しく考えてしまうと、凝り固まるかもしれないため、皆様の若い立場それぞれの経験から、どういふものが良いか、ご意見をいただければと思ひております

市長： まとめとしてご挨拶申し上げます。小林市から湯布院、ロングテーブル。行政が制作しているものも、結構遊び心をもってつくることで興味を持ってもらいたい、そういう時代になってきたということもあります。最近も壇蜜を活用した動画を行政が作って話題になったものがありまして、そういうふうになってきたのではないかなと思ひます。

そういうものに、色々な方が興味を持つようになってきておりますので、来年度から実行していきたいと思ひます。そのための知恵を、まず次回いただきたいと思

いますので、思うところを存分に仰っていただきたいと思います。次回まで少し自分のスマホで見ていただき、ご意見が出ることを期待しております。先ほども申しましたが、初めての会議でこれだけ色々な思いを仰っていただいたということは、これから必ず結果が出てくると思っております。是非積極的に発言をしていただきもし長く時間が必要であれば文書で出していただくなど、工夫していただいても構いません。

ご協力いただきありがとうございます。本日は第一歩でございますので、ぜひこれからも皆さんと一緒に伊東市を良くしていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。本日はありがとうございました。